

新約聖書の中の祈り 第2回

□「祈り」に関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□「イエスの祈り」のアウトライン

福音書の中から、イエスの祈りについて22の事例を取り上げ、それぞれに祈りの場所や時間、そのときの姿勢、祈りの内容、そして祈りがどのように答えられ、どのような出来事につながっていったか、などを見ていきます。

1. 洗礼を受けたときの祈り
2. 第一のメシア的奇跡をはさんでの祈り
3. 十二使徒を選んだときの祈り
4. 五千人の給食を前にしての祈り
5. 五千人の給食の後の祈り
6. 四千人の給食のときの祈り
7. ペテロの信仰告白を前にしての祈り
8. イエスの変貌のときの祈り
9. 70人の弟子が帰ってきたときの祈り
10. 「主の祈り」に先立つ祈り
11. 子どもたちを祝福したときの祈り
12. ラザロのよみがえりのときの祈り
13. ギリシヤ人がイエスに面会を求めたときの祈り

14. 最後の過越の食事での祈り
15. 最後の過越の食事の間でのペテロのために祈り
16. 将来、聖霊が信者の内に住んでくださることについての祈り
17. 大祭司としての祈り
18. ゲッセマネにおける祈り
19. 差し控えられた祈りについての言及
20. 十字架からの祈り
21. エマオにおける祈り
22. 昇天を前にしての祈り

以上の 22 の事例の祈りを全体的に眺めると、イエスの祈りについて 24 のポイントを挙げることができます。これが「イエスの祈り」についての学びの結論部分になります。24 のポイントは、次のとおりです。

1. イエスは、しばしば、一人になって祈るようにしていた。
2. イエスが祈りをした時間帯は、さまざまである。朝であったり、夕であったりである。
3. イエスが祈りをしたときの姿勢も、さまざまである。立って、ひざまずいて、あるいは顔を地面につけて、天を見上げて、というように。
4. イエスの祈りは、しばしば、重要なターニングポイントとなる出来事の直前に祈られている。
5. イエスは、大いなるみわざをするときにも祈った。
6. イエスは、プレッシャーを受けたときにも祈った。
7. イエスは、悲しみのときにも祈った。
8. イエスは、死の直前にも祈った。
9. イエスは、とりなしの祈りをした。ペテロのため、イエスを十字架に釘付けにした兵士たちのため。
10. イエスの祈りの時間は、長短さまざまであった。夜通しや、1時間など。
11. イエスは、父なる神に対して祈った。誰に祈るのか、父なる神である。
12. 祈りのタイプはさまざまである。請願、祝福、感謝、とりなし。
13. イエスは、聖霊に満たされ、喜びにあふれて祈ったことがあった。
14. イエスは、「祈りの本」によらずに、その時その場、自分のことばで祈った。
15. イエスは自分の感情が大きく動く中で祈ったことがあった。
16. イエスは、個人的にも公けにも祈った。
17. イエスは、ほとんどの場合、信者のために祈った。不信者のための祈りは稀である。
18. イエスが祈る動機の中には、神の栄光を含んでいた。そして、私たち自身と他の人々の霊的に益となることを含んでいた。

19. イエスの祈りは、漠然としてはいなかった。誰のために何を祈り求めるのか、はっきりとしていた。
20. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、その理由を明確にした。
21. イエスの祈りは、誰かと対話しているような調子であった。
22. イエスは自分の祈りがすべて聞かれているという確信をもっていた。その一方で、祈りの中で求めたことが、すべてそのとおりに答えられたというわけではない（マタイ 26：36～46）
23. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、父なる神のみこころにかなうのであれば、という条件付きで求めた。
24. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときに、その願いを繰り返し言うことがあった。

□本日の事例 6番から10番まで

6. 四千人の給食のときの祈り

(1) マタイ 15：29～38、マルコ 7：31～8：9

(2) デカポリスにおいて異邦人たちがイエスを受け入れた（マルコ 7：31、マタイ 15：29～31）

① デカポリスとは、10のギリシヤ系都市の連合。ヨルダン川の西側にあったのはスクトポリスだけで、あとの9つは東側（異邦人地域）。町の中で使用される言語はギリシヤ語、住民の中でユダヤ人は少数であった。

② イエスが前に訪れたときには、レギオンという多数の悪霊の集団に憑かれていた男の癒し。このとき豚が2千頭も死んだので、地元の人々はイエスに立ち去るよう求めた。

● マタイ 8：28～34、マルコ 5：1～20、ルカ 8：26～39

③ 癒された男はイエスの弟子になってお供をすることを望んだが、その時点では異邦人の弟子入りは許されず。イエスは彼に地元で自分の経験を証言するよう命じた。彼はイエスについて宣教した（マルコ 5：18～20、ルカ 8：38～39）

④ その宣教活動の結果、今回再びイエスが来たときには、地元の人々はイエスを受け入れた。

⑤ 彼らはイエスのみわざを見て「驚いた。そして彼らはイスラエルの神をあがめた」（マタイ 15：31）

⑥ イエスが異邦人地域へリトリートするのは3回目。目的は使徒たちの訓練

(3) 耳が聞こえず、口がきけない人の癒し（マルコ 7：32～37）

① 病人の友人たちがイエスに手を置いて祈ってもらおうと連れてきた。

② 群衆から離れたこと、癒しの後に口止めしたことから見て、病人はユダヤ人。

デカポリスの中に住む少数派のユダヤ人のひとりであったと推定される

- (4) 群衆（そのほとんどは異邦人）への給食（マルコ 8：1～9）
- (5) この奇跡の目的と意味
 - ① 目的は、使徒たちの訓練
 - ② 意味は、異邦人もメシアの恩恵を受けることになる
- (6) この祈りの特徴
 - ① 感謝をささげる祈りであった。
 - ② 7節では魚を取って祝福をする祈りも
 - ③ 6節ではパンを取って感謝をささげて、7節では魚を取って祝福をして分けた。パンについて、魚について、それぞれについて祈った。

7. ペテロの信仰告白を前にしての祈り

- (1) ルカ 9：18
- (2) 異邦人地域への4回目のリトリート
 - ① 「ピリポ・カイザリヤの村々」（マルコ 8：27）
 - ② 「ピリポ・カイザリヤの地方」（マタイ 16：13）
- (3) この祈りの特徴
 - ① イエスは弟子たちと共にいたが、イエスは弟子たちとは少し離れた所で祈っておられた。
 - ② 離れた所にいるのは、イエスひとりである。
 - ③ 祈っているのは、イエスひとりである。
 - ④ イエスの祈りの内容は、文脈から推定すると、弟子たちが明確に、イエスをメシアとして認識・理解すること
- (4) 祈りの結果 ペテロの信仰告白
 - ① ルカ 9：19～20 「あなたは、神のキリスト（メシア）です」
 - ② 「あなたは、メシア、生ける神の子です」（マタイ 16：16）
 - ③ 「あなたは、メシアです」（マルコ 8：29）

8. イエスの変貌のときの祈り

- (1) イエスの変貌：王国の啓示
 - ① マタイ 17：1～8
 - ② マルコ 9：2～8
 - ③ ルカ 9：28～36
- (2) イエスの変貌と祈りの関係
 - ① ルカ 9：28 「イエスは、祈るために、山に登られた」
 - ② ルカ 9：29 「祈っておられると、御顔の様子が変わり、御衣は白く輝いた」

- (3) この祈りの特徴
- ① 場所は、山の中
 - ② 3人の弟子たちと共にいたが、祈ったのはイエスひとり
 - ③ 時間的長さは、弟子たちが眠り込んでしまうほどの長さ
 - ④ 時は、日中
 - ⑤ 内容は、変貌のための祈り。3人の弟子たちにイエスが王国で持つであろう栄光を見せるため。
- (4) この変貌は、山へ登る前にイエスが約束していたことの成就であった。その約束とは、使徒たちのうちの何人かは、イエスが王国で持つであろう栄光を見るまでは死なない、という約束（ルカ 9：27）。
- (5) 変貌のときにペテロたちが見たのは、イエスの栄光だけではない。モーセとエリヤも見た。山の上には、イエス、3人の弟子たち、そしてモーセとエリヤ、6人がいた。この4つの種類の人々がいる光景は、メシアの王国に4つの種類の人々が存在することの啓示である。
- ① 王なるイエス
 - ② 大患難期を生き延びて王国に入る人々（自然の体のまま）
 - ③ モーセのように一度死を経てから王国に入る人々（復活の体を持つ）
 - ④ エリヤのように死を経ずに王国に入る人々（変換された体を持つ）
- (6) この啓示ゆえに、ルカ 9：27 の約束は「神の国を見る」という約束である

9. 70人の弟子が帰ってきたときの祈り

- (1) 70人の弟子たちの派遣（ルカ 10：1～16）
- (2) 70人の弟子たちの帰還（ルカ 10：17～20）
- (3) ルカ 10：21～22 イエスの祈り
 - ① 天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。
 - ② これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。
 - 信じる者と信じない者がいることの説明
 - 信じない者は、たとえ賢くて知恵がある者であっても、その人の罪ゆえに神の国の福音のすばらしさが隠され、福音を受け入れることができず、メシアを拒否する。
 - 信じる者は、霊的な幼子のような者であるが、神の国が近づいたという知らせを良き知らせとして理解させられ、メシアを信じ受け入れる。
 - ③ すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。
 - ④ それで、子がだれであるかは、父のほかには知る者がありません。
 - ⑤ また、父がだれであるかは、子と、子が父を知らせようと心に定めた人たち

のほかは、だれも知る者がありません。

(4) 弟子たちへのイエスのことば ルカ 10 : 23~24

(5) イエスの祈りの特徴

- ① イエスの心境：「聖霊によって喜びにあふれて」
- ② この祈りは、個人的な祈りではない。周りにいる弟子たち、またさらに弟子たちの周りにいる人々にも聞こえるように祈った公けの祈りである。
- ③ 祈りの対象は、父なる神である。父なる神を、「天地の主」と呼んでいる。
- ④ 神のみこころがなされたことについての感謝である。
- ⑤ 「聖霊によって」・・・直訳すると「聖霊の中で」祈った。具体的には、
 - 聖霊がイエスに祈るように促したときには、それに応じて祈る
 - 祈るときには、聖霊の力によって祈る

10. 「主の祈り」に先立つ祈り

(1) ルカ 11 : 1

(2) ルカ 11 : 2 以降は、「主の祈り」としてよく知られた箇所である。

(3) 1節の中には、短い箇所であるが、このときのイエスの祈りについて幾つの特徴が見られる。

- ① イエスは祈るために、ある程度の条件を満たす場所や時間帯の組み合わせを決めていたようである。それゆえ、弟子たちは「今なら、どこそこの場所でイエスが祈っておられる」と予測できて、イエスの祈りを観察することができた。
- ② イエスのここでの祈りの目的と内容は、文脈からすると、弟子たちが自分たちもイエスのように祈りたいと願うようになることであった。祈りは答えられた。イエスの祈りが終わると、弟子たちの中の一人が、「私たちにも祈りを教えてください」と求めてきた。
 - 「祈りを教えてください」と訳されているが、「祈り」は名詞ではなく、動詞の「祈る」である。→「祈ることを教えてください」
 - これは、どのように祈るのかを教えてくださいということ。あらかじめ決められた定型的な祈り、いわゆる式文を教えてくださいというのではなく、祈るという行為はどのようにするのか、という質問である。
- ③ 先駆者ヨハネも、当時の彼の弟子たちに、どのように祈るべきかを教えた。
- ④ ということは、先駆者ヨハネもイエスご自身も、その祈り方は当時のユダヤ人の習慣とは違っていた。当時のユダヤ人の習慣とは、祈りのさまざまなテーマごとに、あらかじめ祈りのことばが決められていて、それを唱えるのが祈りであった。現代のユダヤ教では、それを本にしたものがある。いわゆる「祈りの本」である。